

若手医師と地域医療について考える：第1回 JMA-JDN セミナー

JDN セミナー企画担当 淀川キリスト教病院 産婦人科 後期研修医 柴田綾子

セミナー日程：平成 26 年 11 月 2 日

「地域医療と国際保健は実は繋がっています」セミナー開始時の石井正三先生のお言葉です。第1回 JMA-JDN セミナーは、第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会学会の自由集会として、厚生労働省医政局地域医療計画課から高山義浩先生をお招きし、地域医療、そして団塊の世代が75才を迎える2025年について考えるワークショップを開催しました。講師の高山先生から、今後日本は人口減少と超高齢化という2つの変化に対応していかなければいけないこと、世帯構成の変化から今後増加する「高齢者・独居」の方たちを、地域のみんなでみていく仕組みを創る必要があることが紹介されました。「地域住民が話し合いに参加し、住民のニーズにあわせて政策をつくり、地域資源を有効に活用する」というプライマリ・ヘルスケアの5原則は、国際保健だけではなく、地域医療を行なう上でも重要であると強調されました。

ワークショップでは、高山先生から実際にあった癌終末期の患者さんのお話が2例紹介され、参加者とともに「この患者と家族にとって、一番良い形はなんだろう」ということをグループディスカッションしていきました。

JDN スタッフ6人の他に医師13人、医学生10人、コメディカル10人と40人近い人が参加し、在宅療養にむけてどのような準備が必要か、急性期病院から地域の診療所へ繋げていくために、どんな話し合いが必要かを考えていきました。

最後に高山先生から、「古い」は「病気」ではないこと、高齢者の方は人生の大先輩であり、敬意を持って「人生の物語とその解釈モデル」に耳を傾けることが大切であること、「独居＝悪い」と決めつけず、地域ぐるみで「その方の死へのプロセス」を支えられるような地域創りを目指すことが今後の日本に重要なのだとお話を頂きました。

JDN では、今後も私達若手医師が学んでいかなければいけないことを勉強会として取り上げ企画していきたいと考えております。

今後も皆様からのご助言・ご支援のほど、どうかよろしくお願い致します。